

議会広報特別委員会

日 時	令和 8年 2月20日 (金) 閉会中	13時00分 開会 14時09分 閉会
場 所	相良庁舎 4階 第3会議室	
出席議員	(委員長) 8番 絹村智昭	(副委員長) 3番 石山和生
	7番 鈴木長馬	6番 菅沼保弘
	2番 篠崎朗子	1番 中山尚大
欠席議員		
法第105条出席		
事務局	書記 増田 奈菜子	書記 中田 綾
説明員		

署名 _____ 議会広報特別委員長

開会の宣告

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

皆さんおそろいということで、広報委員会のほうを始めさせていただきます。よろしくお願ひします。

2 事件 (1) 牧之原市議会だより「かけはし」紙面のリニューアルについて

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今回は前回に引き続いて、リニューアルの件でこの間出た意見をまとめながら、また新しいものというか、まとめながら、また意見を出していただければと思います。

そういう中で、今日は。

副委員長、いいですか。

○（石山和生君）

本日は、前回出したコンテンツって何があるのというところにプラスオン何かあるんだっけっていただく。ここで一旦そこは締め切らせてもらって、その出したコンテンツが果たしてできそうなのかというところ。本当に採用するのかというのは、また、ここで話をして行って、今後、多分、今日はそこまでいけば上等なところで、それ以降にまたビジュアルの話だとかをしていくということになると思います。

何か補足しますか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

委員会のフォルダの中に資料1、2、3とございます。資料1、2が、前回の委員会でもご提示いたしました、皆様のリニューアル案をまとめたものになります。

1が、議員ごとにまとめたもの、2が、おおよそのカテゴリーごとに分けた色分けのものになります。そして3が、前回の委員会でご覧から得たご意見を一通りまとめた資料になりますので、参考にいただければと思います。

また、すみません、前回の委員会でご説明がちょっとできなかったんですけども、資料1の議員の皆様に出していただいた意見の最後に、事務局と、それから前回の委員会メンバーで出した改定案を併せて載せております。

また、令和7年12月19日の議会広報特別委員会にてリニューアル案を何名かの方がその場でおっしゃっていたものがあつたかと思ひますので、それについても拾って、なるべく入れるようにしております。こちらも今日のコンテンツの内容と併せて話し合っただけければと思ひますので、よろしくお願ひします。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そういう中でまずは表紙とか、これできる、できないねという中で、主だったものの中で、この間、石山委員が言われた、紹介ページ、そういうのはどうなのかなというところ、

もしご意見があれば。

石山委員。

○（石山和生君）

その前に、コンテンツがさらにないかは一応確認して、その次のフェーズで削るというのをやっていきたいんですけど。新たなコンテンツが特になければ、その段階に入っていて。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

コンテンツとはちょっとずれてしまうかもしれないんですけども、これ決して不満ではないんですけど、この前おっしゃっていたことで、リニューアル案として現在取りあえず一番全体のページとして一般質問のページが多いので、そこを削っていこうみたいなお話があって、そこに代わりにコンテンツを入れるというふうになったと思うんですけども、そうすると多分、全体のかけはしのページの割合でいうと、本当に20%ぐらいしか変わっていないんじゃないかなという私は印象を持ってしまして、リニューアルというのは、私もっと大まかに変わってもよかったのかなとは思ったんですけど、一応、ページ比率でいうと、そこまで大きな変更はないみたいな認識になってしまうんですけど、そういう考え方で大丈夫でしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

やっぱり一般質問という大切なもの、市民の声、一般質問の市民の声という捉え方でいうと、大事な部分になるんですけど、もっとリニューアルという中で、いろんな提案、特集ページ、そういうのも取り入れていきたいという捉え方で、いいバランスが取れるかなという感じではいるのですが。

副委員長。

○（石山和生君）

リニューアルという言葉にそこまでとられる必要はないのかなと個人的には思いますが、ただ、リニューアルといっても、中身が変わっていなくても見え方が変わったり、デザイン含め、あればリニューアルとも言うんじゃないかなとは思いますが。

別に最初から20%だけ変えようという話をしてはなくて、どちらかといったら、委員会の中で、これは変えないほうがいいのではないかという話になったという理解をしているので、それはそれでいいんじゃないかなと、個人的には思います。

○（中山尚大君）

そういうお考えだと分かりました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

前回の話の中で、一般質問のページ割り、この間、菅沼委員が言ってくれたのがたくさんあったのも、ある程度まとめる、あれだとなかなかやっぱり市民の声というのを逆にしっかり市民に全体に広がらないのかなというのはあるので、なので二つ、1ページに2名の題という感じでいいのかなと、自分は思っているんですけど。

今ちょうど、中山委員から一般質問のページ数なりの話も出たので、まず言っておきました。

ほかないですか。

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

私も一般質問は大体1ページ2名でいいんじゃないかなとは思いますが。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

一般質問に限らず、何かありましたよね、あと。毎回、それぞれの質問を少し少なくすることによって半ページ開けたりとか、そういう工夫はできるという話だったので、いずれにせよ、ページを増やすという、予算を増やしてページを増やすというところまではやらず、今あるページ内でやっていくという方針が、ざっくり前回言っていた方針。

削り方としては、今、一般質問は確実にいけるだろうという話と、五、六個質問しているやつも少なくするみたいな話もちよっと出ていたかなという認識でいます。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ありがとうございます。今出たのは一般質問のほうなんですけど、1ページに2名という、2題。それであと、要はコンパクト。質疑等のあれも、本当にコンパクト化してやっていくという方向でいいのかも、ご意見いただければと思います。

○（石山和生君）

すみません、何の意見ですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

一般質問じゃなくて、ほかの質疑。

中山委員。

○（中山尚大君）

おっしゃるとおり、ほかの質疑も、委員長がおっしゃるとおり、コンパクトにしていて、あと、文体も読みやすくするなどして、本当にかげはしの最初に取決であったような、中学生にも分かるような、伝わるようなつくり方をしていくというのがいいのかなと、私は思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それはすごい前から、広報委員会、1期目の頃から、それはずっと継続している話で、もっとよりよく、もっとという感じで、それはそれで継続していくつもりでいます。

副委員長。

○（石山和生君）

今回、新たなこういうコンテンツがほしいよというのは一旦締め切るというか、フェーズは過ぎちゃって大丈夫ですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

それはまた、例えば、いろいろやっていったらやっていく段階で、やっぱりこれ入れたいよねというのは、また次のときに話したりとかすれば大丈夫ですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

どうしてもということがあれば、それはそうなるんですけど、本当に最後の最後に、やっぱりとかってなっても、なかなかいい案だったとしても難しい可能性があるということだけは、ご承知おき願いたいかなぐらいですね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そういう中で、今のうちに出すものを出していただいて、言っておいていただければ。
篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

今回のリニューアル案というのは、このリニューアル案でつくった先のものというのに関して、そこは刷新していかないということなのか、これはあくまで次号のことなのかというところの定義がほしいなど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

次号にはもう間に合わないし、まだ、アンケートの調査中であるので、アンケートをまた精査しながら、それを参考にしながら、整合性を合わせながら。そうするとざっと、次の号にはなかなか無理だなというのものもあるし、またその次の号まで間に合うかも分からないし。

なので、やっぱりそうすると、年間4回ある中でなってくる。まず、そのパターン次第という形になるかなど。なので、次号、それで次の号もなかなかちょっとどこまで進むかというのは、これはちょっと分からないというところです。

副委員長。

○（石山和生君）

今リニューアルでわざわざ題目とやっているものは、今回一新で、別にやっていく中で微修正とかリニューアルが必要であれば、それはやるでいいと思います。

毎回、わざわざ新たな企画をがんとせっかくつくったのに、やっぱりといってすぐ変えるというのも、なかなか流れ的に難しいとは思っているので、今のうちに出しておいたほうがいいなとは思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ほかにはいかがでしょう。

いいですかね取りあえず。

〔「なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それで、表紙の部分、すごくやっぱり一番目に入るのは表紙なので、そのリニューアルに関しては、前回、自分はいつもの市の広報誌的な全面張りだというの、前からやっていた話があった、ほかの自治体でもやっているところなので、これはちょっと自分を取りかかりたいなという思いがある。それはまた、アンケートがそろい次第、表紙をこうしてもらいたいという情報も入ってくるかもしれないし、その辺また見ながら、やっていければなというところです。

副委員長。

○（石山和生君）

今、コンテンツも出そろったという前提で進めさせてもらおうと、あと、さっき言ったように、ニュースがあるときはその特集記事を使わなきゃいけない。だから、常設と、そういうイベントページみたいなものは分けなきゃいけない、企画を考える、コンテンツを考える上で。恐らく一般質問から1ページ2人にするとなれば、少なくとも3ページに。少なくとも6人ぐらいは一般質問って今までしていますよね。5人から6人は。

○事務局書記（増田奈菜子君）

毎回10人くらいです。

○（石山和生君）

ですよね。すごい少ないときを考えても、6人くらいはいる感じがするので、3ページは、もし常設企画を考えようと思えば考えられる。それ以外のページは、意外とニュースとか、この研修行ったとかになると埋まってしまう可能性があるんで、もし常設にする企画はやっても3ページ、余裕持ったら2ページくらいの感覚で、それ以外はイベントページの感覚でやっていくということが考えられると思います。なので、二つ、そういう常設ページとイベント企画みたいなので分類していったほうがいいと思っています。

という前提の下、今から各コンテンツが本当にできるのか、そしてこれやるんだったら常設なのか、イベントページでいいんじゃないかということなのか。イベントページであれば、そんなに、やれるときにやるというスタンスになると思うので、気軽に入れられると思いますが、常設ページとなると、毎巻号ちゃんとそのページをつくるということになるので、そこを気をつけながらやっていく必要があると思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

確認させてもらいますが、イベントページって、イベントというのは、議会の中のイベント。

○（石山和生君）

イベントという言葉がちょっとうまくいかない。常設というのは、毎巻号必ず出すのが常設で、例えば、この前の議会の仕事みたいな、議会の紹介するものって絶対毎巻号なきゃいけないわけじゃないじゃないですか。ページが余ったという言い方はよくないけど、ページが空いているときには一時的に、連続じゃなくてもいい一時的なページのことを、さっきイベントページと言いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

なるほど、理解できました。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

今、副委員長がおっしゃったことは、資料3にあるようなリニューアル案で前回出てきたコンテンツが、実現可能性があるかどうかをまず考えるのが一つ。かつ、もう一つが、毎号必ず載せる常設ページとしてどれを採用するか。不定期連載で行うものとして採用するかどうか。これを決めるということによろしいですよ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

というわけで、今出ているリニューアル案を一つ一つ、これはどういうふうに取り上げ

ていくのか、もしくはやらないのか、そういったものを話していったほうがいいと思います。

一般質問ページの上から話していくで、いいですかね。

一般質問ページの圧縮に関しては、さっきこれ、2、3と書いてありますが、まずは2人でやっていくのがいいんじゃないかと前回言っていました、それはそれでいいでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○（石山和生君）

じゃあそれはオーケーですね。

なので、（1）に関しては、1ページに2人という方針で今のところ方針として決めるということ。

では、二つ目の議員紹介の充実というところですね。これは僕は常設したいと言いましたが、それは私個人の話なので、それは皆さんから意見をいただいて、どういうふうにしていくか。いらんという話もありだと思いますし、それは皆さんのご意見をいただけたらなというふうに思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

考えとしてはすごい同意しているんですけども、前回もほかの委員の方もおっしゃったように、個人情報とか連絡先を載せると、人によっては連絡が来過ぎちゃってコントロールができなくなってしまうみたいな方もいると思うし、考え方、自分の個人情報の明かし方に対しても個別あるので、紹介の仕方をまず明確にして、それでみんなが納得できるかというやり方をしていただけないと、個人情報の扱い方なので慎重にしたほうがいいのかなとは、私は思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

私が今どういうことを想定しているかだけ話させていただくと、資料1の私が提出したものを少し見ていただいて、ページ数は2ページです。

1ページもしくはページをまたいでもいいので、以下の各議員の情報を載せる。議員の名前、あと顔写真、選出地区、あと得意分野くらいですかね、私が必ず入れたほうがいいなと思うのは。あと連絡先というのがあって、それも任意で書くことも可能かと思います。

○（菅沼保弘君）

事務局を窓口にしてというのは、可能なんですか。どの程度、来るかなんですけど。

○（石山和生君）

事務局の負担が物すごくなると思うので、それは僕はすべきじゃないというふうに思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

あるところで、議会広報は議員の売名行為をしてはならないみたいなどころがあるので、これが売名にならなければというふうに捉えられるのであれば、悪くないと思うんですけども、16人分全部なのでという解釈になるのか、もしくは16人全員載せても売名ということになるのかというのは、どこで判断したらいいのかなというのは、ちょっと教えていただきたいなど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

売名かどうかはさておくところなんですけど、狛江市議会だより議会ガイドでは、毎号毎号、一番最後のページに所属している議員さんたちへの質問コーナーが載せられております。

全員分顔写真が載っており、例えば、あなたの勝負飯は何ですかというような簡単な質問に全員が答えるというような形式を取っておりますので、議員の紹介ページを取ること自体が売名行為と考えるのは、ちょっと違うのかなということを感じております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

僕もどちらかというのと、どちらかというところというか、ここは公平、公正、中立を保てれば、それは別に売名に当たらないのではないかなというふうに思います。

一人一人ピックアップしてしまうと、タイミング、選挙前のときにピックアップされているこの人かというのはあると思いますけど、逆に毎回ちゃんと全員が収まっていれば、そこでそういう解釈にはならないんじゃないか。もし、懸念点があれば、どこに確認するんでしょうかね。国なのか、確認はしたらいいとは思いますが、基本的に大丈夫じゃないかと思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

そうしたら、先ほどの狛江市さんと同じように、そういう情報というか、好みとかなんとかちょっと軽めの質問とか、もしくは市民の皆様から寄せられた質問に対して、それをちょっと、この人はどうという人だと分かるものを毎回載せていくとか、そういうのもありかなと思うんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

議員さんの趣味とかを知ったというのは、それはそれでいいんですが、私の思いとしては、やっぱり市民の方が、自分が困っている分野に精通している議員さんは誰なんだろうとか、自分の住んでいる地区から出ている人くらいは把握してそうなものなんですけど、それでも自分の近く、自分が住んでいる近くの議員さんにだったら頼れるなとか、農業系だったらこの人に頼れるなとか、そういう相談先が知れるというのが一番大切なことだなと思っているので、同じサウナ好きだから聞こうというのもあるかもしれませんが、基本

的にはそういう得意分野みたいなものが載っていたほうが。プラスオンでもいいとは思いますがけれども、少なくともそういうのは載っていたほうがいいのではないかなとは、個人的には思います。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

中山委員。

○ **（中山尚大君）**

今全然、篠崎委員と石山委員でお考えが違うのかなというふうに伺ったんですけど、私の考えとしては、石山委員の考えもすごくすてきだと思んですけど、私としてはそういうある意味、ちょっと電話帳的な感覚で名前を載せるのではなくて、本当にかげはしの目的として、議会に親しみを持ってもらおうとか、読んでもらおうとか、読みやすい文章にするみたいなニュアンスのほうをもっと入れたいなという気持ちがあるので、篠崎委員がおっしゃっているような、食事とか趣味とかそういう領域でもいいのかなと、私は個人的には思います。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

○ **（石山和生君）**

それはそれでいいので、どちらもやるでもいいということですか、それは。

○ **（中山尚大君）**

おっしゃるとおり、どちらもやるということです。

○ **（石山和生君）**

それなら僕は全然構わないです。私の話は、最低限これは載せてほしいと。プラスアルファは別にプラスアルファで載せていただく分には構わないですけど、梓の話だけは出てきますけどね。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

事務局。

○ **事務局書記（増田奈菜子君）**

先日、絹村委員長が委員会でおっしゃっていたんですが、議会広報リニューアル案について、それぞれの議員さんの意見が載っている資料1の最終ページに、議会事務局・過去の委員会での検討事項を載せておりますので、そちらを一旦ご確認いただけるでしょうか。

○ **（石山和生君）**

7ページですか。

○ **事務局書記（増田奈菜子君）**

そうですね、ページ数としては7ページ目になります。

こちら、上から6番目に、議員紹介ページをつくるという意見がございます。これが、過去の委員会でも検討されていた事項であり、かつ、先日、令和8年2月6日に行われた地区行政連絡会にて、委員長と出席をした際に区長の方々から、それぞれの議員がどのような分野に興味関心があって活動しているのか分からないため、もっと詳細な議員紹介ページがほしいという意見がございました。なので、連絡先はさておき、それぞれがどのような政治分野、農業であったりとか、あと医療であったりとかに興味があって、どこの地区でどんな思いを抱えているのかというのを紹介するページはあってもよいのかなという

ことを個人的には感じております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

自分から。今、事務局から話があった2月6日、前回にも言ったと思うけど、やっぱりそういう意見があったというのは、確かにそれも地区長さんからだよ。地区の長。各地区の中の一つ取りまとめる地区長さんが質疑で言われたことで、そういうのを発信してほしいという、ある意味、要望的なことだったんですよ。

本当に市民の代表される方からの声なので、そういうのもちゃんと受け止めなければいかんというの自分も感じましたし、なのでそれで今回、副委員長が挙げた紹介ページ、これはぜひとも自分も、内容は置いておきまして、やる必要はあるのかなと思って。

そういう中で、自分の今度は個人的な意見になるんですけど、得意分野に関しては、それぞれあると思います。だけど、基本的には自分たちは建設から福祉まで、一応は自分たちは網羅して何でも答えられるというスタイルで常にいなければいけないと思っているので、得意分野があったとしても、確かに例えば、石山委員だと、自分のイメージだと観光とかそういう、例えば、医療関係の強い方もいるかもしれないし、農業の関係に強い方も確かにいるかもしれないけど、我々はそれなりにしっかりやってきているんですよ、全部網羅して。得意分野ではなく、やる気。どういう、これちょっとまたこれから協議、もし載せるようだったらその協議になってくると思うんですけど、そこはまた考えていったら、市民に寄り添いながらという、そういうのにつながっていくかなと思いました。

副委員長。

○（石山和生君）

得意分野の話は僕はあったほうがいい派ですが、取りあえず今日は、さらに詳細はまた後で。そもそもこれを常設ページ、なので僕は毎巻号あったほうがいい派ですが、そこで、例えば、1年に1回でいいでしょうとか、そういう話は出てきても議論としては普通かなとは思いますが。

僕は何度でも言いますが、市民の方が困っているときに聞きやすくなるという点で捉えているので、僕は毎巻号、一番後ろとかにあったら一番いいなと思っている派ですが、なので、常設なのか、さっきの不定期連載なのか、不定期採用なのかみたいところを、意見をほしいなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

やるんでしたら、毎回でいいと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

載せる内容ですけど、内容について、例えば意見を求められて、その意見をどう使用するかというの考えておかないと、例えば、委員一人で市当局に聞いて回答していいのか、その辺もちゃんとしていかないと、今後、問題が出てくるのではないかなと思うんですけど、その辺はどうでしょう。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それを載せるか載せないか、一応そういう意見もあるよというのは取りあえず受け止めます。

○（石山和生君）

今の話は、そもそも論、不採用のほうがいいんじゃないかという話。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

採用、不採用じゃなくて、そういうこともちゃんとしておかないと、考慮していかないと、あとあと例えば、問題になることもあるものですから、と思ったんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

やるのはいいけど、運用に気をつけたほうがいいよねという話ですよ。

だから、それは一旦オーケーということで、別にここで議論を深めなくてもいいけど、運用自体は相談が来て当局にというのは、そもそもそれが議員のお仕事のような気もするので、大丈夫じゃないかなとは個人的には思いますが、それはまた内容を詰めていきましょう、次の段階で。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

自分もひと言言わせてください。それこそ、要望をもらって、結局何を危惧しているかという、それが結局、医療に詳しい、自分だとして、それでそのときにこの方が対応して、もしそれが解決できなかったと。そういうときに、何でできるのに、得意なのにできないのかよという、そういう。そうすると、議員は、議会はというところにつながってくるという考え方、そういうところ危惧しているということです。

分かりました。だけど、それはそれで、そういう意見ということで。

中山委員。

○（中山尚大君）

私の意見といたしましては、皆さんがおっしゃっているように常設して、議員の連絡先とか考えとかが、紹介が常に分かるという考え方もいいんですけども、紙面の充実という意味を考えると、毎号同じだと、またここも同じことやっているなみたいな感じで、常に議員の紹介で1ページ必ず埋まってしまうという形になってしまうので、紙面の充実という意味では、あまり好ましくないのかなという考えもありまして、あとはこれ、内容も完全に決まっているので、ある意味、この号で書くことがなければ穴埋めにちょうどいいのかなみたいな使い方もできると思うんですね、この特集というのは。いつでも出せるものですし、1ページ完全に埋まってしまうので。

そういう意味で、不定期でほかにネタがないときの穴埋めの記事としてうまく使えるのではないかなとは思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

私のほうは、その内容を挙げること自体は別に構わないと思うんですけど、牧之原市っ

て結構広いじゃないですか。その中身がいろんなところにいろんなことをやっているんだけど、それが皆さんに伝わっていないというのがちょっとあるような気がして。

イベントに固執しなくてもいいと思うんですけど。あそここのところで今こういうのがいいですよとか、こっちがこういうことをしていますよとか、そういうのも市議会だよりとして広報でもいいんですけど、ちょっと微妙なところですよ。市議会だよりに見えるかどうかというのが問題ですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

新たなページの話ですよ。了解です。議員紹介のページに関しては特に何かないですか。

○（菅沼保弘君）

それは大丈夫です。

○（石山和生君）

それは常設派なのか、イベント派なのか、不定期連載といたら、何か意見はないですか。

○（菅沼保弘君）

常時、皆さんの意見があるかどうかということと、市民の声がそれだけ入るかどうか、ちょっと最初の時点で不安なんです。だから、不定期にしておいて、状況を見ながら変えていくというような感じがいいかなと思ったんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

となると、逆に試験的に1年やってみて、そこから考えればいいのかという。今、要望も上がっているということなので、まず4回出してみて、そのときに、あまり意味ないなということであれば、そこから不定期にしていくということもあると思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

僕もやってみて、逆に1年やってみて不定期にするパターンって、どういうときなのかというの。連絡が来過ぎて困るから不定期にするというのだと、元も子もないような話な気がするし。僕は、だけど常設の方向でいけるんだったら、1年でもしてもらえたらうれしいなと思います。

○（菅沼保弘君）

どんな意見が入るかというのが結構問題だと思うので、1回やってみないと本当に分からないなという気がしていました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それでは、まずは一応常設、期間は1年なりそのぐらいやってまず様子を、そこでまたみんなで様子を見ながら、情報を聞きながら市民の声を伺いながら、これから進めていくという形で。これはもうするというので。内容に関してはまた協議。

基本的に先ほども言ったとおり、アンケートでこういうのをしたらというのがもしかしたら出てくるかもしれないし、そういうのも参考にしながら進めていければと思います。副委員長。

○（石山和生君）

リニューアルの話は一旦オーケーということで、次に進んで、市民に向けたコンテンツという話があって、どっちかというところ、市民に向けたコンテンツの中身が、議会の解説とか、議会の仕事とか、議員の一日とか、そういう感じですよ、多分。議会というものに対しての説明ページみたいなのがあったらいいんじゃないかというところですが、これは常設なのか不定期連載なのか、そういうところにご意見がある方、どうでしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

これはコンテンツそのものを設けるというよりも、例えば、予算審議であれば、消防署とかいろいろ、身近な火葬場とかということが、生活に密着した部分を市民の方々に向けて分かりやすくポップに解説するとかという、今までの議会を出していた紙面をもうちょっと分かりやすく、砕けて、そっちだとデザイン的な話になっちゃうかもしれないんですけども、そういうふうにやっていけば、コンテンツとしては本当に仕事とかそういうのは不定期で入れるみたいな感じでできるのかなと思うんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今のもなかなかいい意見だと思うし、それはまた。自分、いつも議会報告会で、議員は二元代表制なので、市民の方は二元代表制って、んと思うんです。自分が入ったときも二元代表制でって。そこで説明、議会とはと、そういうところの、チャート的な絵でぼんとやるのは分かりやすいなど、いつも議会報告会ではやっているし、見せているんですけど、そういうのも載せたらどうかなという。まず、議会はこういうものだよという、こうなって、議員たちが付託されて、難しい言葉を言っちゃうとまたあれなんだけど、付託とか言うともあれなんですけど、こういう構成でできているという形の、というのを載せていったらどうかなというのは、コンテンツの中でいいかなとは思いますが。

これは個人的な意見です。皆さん、また声を上げていただければと思います。

中山委員。

○（中山尚大君）

今、まずあれですね、市民に向けたコンテンツを定期的にするか不定期的にするかというお話だと思うんですけども、そこで用語解説とかもすごくいいなと思うんですけど、これを定期的にしてしまうと、ネタがある意味、永遠に説明できるんですけど、どんどん、どんどんディープな話になっていっちゃって、ネタが続くのかということと、あと議会の仕事の紹介とかに関しても、定期的にしてしまうと多分毎回何かしら写真を撮って紹介みたいになってしまうので事務局の負担もありますし、ネタが続くのかなというのは、私は懸念しております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

僕も不定期でいいかなというふうには思っています。不定期の中でも、さっきの解説ページみたいなのは篠崎委員がおっしゃっていたと思うんですが、いずれにせよ、1ページ、我々委員会として何かつくるみたいな話。それは違うか、それは定期的な話だからいいや。僕も不定期でいいんじゃないかなというふうには思っています。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

じゃあ、その部分に関しては、一応不定期という形で。

例えば、すごいページが余るとなったら、一般質問の方の量にもよって、また1ページ、2ページ変わってくるんですよね。ですのでやっぱり、そういう載せられる、これは載せられるというのがまた出てくるので、そこは不定期になるのかなと思います。

次。

副委員長。

○（石山和生君）

4番目は、コンテンツというよりはビジュアルの話ですね。質問の量を増やす減らすみたいな話なので、4は一旦今回はいいかなというふうに思っていますので、いいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○（石山和生君）

5番目ですね。市民と議会の双方向性の確保で、市民の声を聞くコーナーやアンケート結果を反映させると書いてあります。なので、市民の方に、ほかの市町でやっていたのは、市民のどこかの団体にインタビューなり何なりしに行って、話してもらって記事をつくるみたいなことをやっているところもありましたが、そういったことをそもそもやるのか、やるのなら、不定期、定期みたいなところの意見を聞きたいですね。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

私はやるのはすごくいいなと思います。やはり市民の声を反映させると、私の声がかっているなということで市民も見ることになるので、すごくいいアイデアだと思うんですけど、一番大事なのは、話題の硬さと柔らかさで、あまりここで政治でバチバチの話をしてしまうと、やっぱり置いてきぼりになってしまう方がいるので、本当にただの交流の場みたいな形でやるのがいいのではないかなとは感じております。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

今回でいうと、請願が2件出ているので、こういうのは取り扱わなきゃなとは思いますが、ちょっとバチバチな感じになるかもしれないんですけども。なので、毎回載せるけれども、色を毎回変えるというか、本当にちゃんと伝えなきゃいけないものがあるときは硬くしてもオーケーで、あまりないときは本当に親しみやすいところというように、毎回毎回、出てきたもので変えるという方法で常設でいいのかなと思います。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

補足事項としては、請願があったら、請願ページはつくりますよね。そういう結構重大な何かがあったら、それ用に半ページなのか1ページなのか、それ用にとったりするのが毎回やっていることなので、それはそれで既にあるかもしれないなという補足でした。

○（篠崎朗子君）

やわらかくていいということですね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

やらなくていいというよりは。柔らかくというか。請願に関して以外になると思います。やるならば。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

確認したいんですけど、ここで仮に何かしら政治的に議論が分かれる話題を市民との声を聞くコーナーで扱ったとして、委員会から何かしらの政治的な立ち位置の意見を発することというのはできるんですか。多分それがかなり難しくなるので、そういう議案とか、市政に対するQ & Aみたいなのがちょっと現実的じゃないのかなと私は考えているんですけど、その現実性みたいなのが知りたいです。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

おっしゃるとおり、委員会として何か支持をすとかというのはできないと思います。

私はどちらかという、定期的なのか不定期的なかで、多分定期だと相当大変だろうと。さっきのネタの話もありますし、誰にするのかから、何を聞くのか、それを全てやる必要があって。定期にするなら、定期ではあるけど毎巻じゃないとか。毎巻って、隔週じゃないけど、隔号。順番でやるとかなら、まだ実現可能性あると思うんですけど、3か月に1回、誰にして、インタビューどういうふうにして、それを記事をデザインしてとかというのはできるかなみたいなのは、若干懸念点として。最初のほうはいいかもしれないけど、というのはちょっと心配なところはあります。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

参考までに、前回お伝えした島田市議会ですね、インタビュー記事を毎号載せているんですけども、島田市議会では、まず1年の初めに年4回分の議会だよりでインタビューする人をスケジュールで決めちゃうらしいんですね。4人分全部。決めて、広報特別委員会のメンバーを何人かに分けて、何月号は誰々委員と誰々委員がインタビュー担当ですということを決めて分担していくようになっているんですが、毎回、やはり事務局は随行して写真を撮ったりとかという手間は発生するかと思います。

なので、委員さん側にとっても、事務局側にとっても、ある程度の負担になることは予想されるのかなとは思われます。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

これは個人的なことなんですけど、今、市民の声を聞くと、すごくいいものだなというのは感じているんですけど、例えば地域に行ったときに、声を、そこの地域だけの人、先ほども順番で回していけばみたいな話になって。要は偏りができたら公平性も欠けてきちゃうし、広報紙として。なので、そこら辺をうまくやらないといけないなど。あと、事務局についても、自分たちの負担、どこまでできるかというのがあるので、不定期で1回、今回アンケートをさせてもらったんですけど、どういう声がまた返ってくるのかというのにも興味深いところなんですけど。

中山委員。

○（中山尚大君）

おっしゃるとおり、内容によってはそういうふうに不定期にならないときつかなんというのもあるんですけど、内容の柔らかさとか緩さで、その辺、大分調整できるのかなと、私は思っています。例えば、牧之原市のお勧めの場所はどこですかとか、好きな食べ物は何ですかとか、そういうレベルの話にしてしまえば、かなり手軽に記事をつくることもできますし、議会のそういう親しみやすさみたいなものも伝わるので、内容で多少は工夫できるのかなとは、私は考えております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

さっき、1年分まとめてやるとか工夫すればできなくはないかなとは思いました。

ただ、僕がよく分からないのは、食べ物とかそういうの聞いて、いるかなその情報みたいなというのは、若干議会の広報紙で市民の。言語化できない違和感を感じるけど、すみません、まだ分からないけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

例えば、協力してくださっているNPO法人さんですか団体さん、永遠には無理なんですけど、募るだけ募ってみるみたいな、今回のアンケートみたいに募るだけ募って、そこで何か交流をして、それを伝えるとか、そういうのを年1ぐらいとかだったらできるのかもしれないと思うんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

定期、不定期の話で、市民がピックアップされているというのが定期的だったら、それ読みたから開けようとなると思うんですけど、不定期だと、読んでみたらいた程度。何となく分かりますか。このインタビュー見たいから開こうは、不定期の場合はほぼなくなる。定期的だったら、必ずそのページがあるので、今号は誰をピックアップしているのかなって、まだ見そうな気はするけど、不定期。どうなんだろう。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

事務局側の負担になるので、一概に今できるとは言いかねるんですけど、先ほどの狛江市議会だよりでは、毎号アンケートを実は取っているんですね。QRコードが常に常設されていて、そこから議会だよりについての意見を送れるようになっていまして、今回のアンケートと同じように、常設のアンケートみたいなものを設けておいて、そこに議員の皆様にも聞きたいことであつたりとか、それから先ほどおっしゃっていた、議員の紹介ページはどうでしたか、みたいな項目を設けて回答していただければ、1年後、議員の紹介ページがあるか、いないかの判断ができると同時に、議員さんに聞きたいことの欄から幾つか質問をピックアップして市民の声を拾い上げて、それに対して回答するコーナーがつけられる可能性はございます。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

面白いですね。ありがとうございます。

副委員長。

○（石山和生君）

アンケートはアンケートでいいと思うんですけど、インタビューの話は、どのくらいやるんだったら定期的じゃないのかな。そこら辺、ちょっと意見を聞きたいですね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

本当に、こういう予算とか考えることばかりのときという号はちょっと置いておいて、できるときにはやる。その中に広報のお知らせとして、何月号と何月号にはこういうのが載りますということを常にお知らせしておくというのはいいのかなと思うんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

そういう定期と不定期で、読むか読まないかみたいな話になるのであれば、私は表紙の案としても、今回特集している内容とかをもっと軽くまとめたりだとか、要約みたいなものを表紙に載せれば、ある程度、そこら辺はカバーできるのかなとは思っております。

また、そういう要約を載せることで、こういうのが載っているんだと手に取りやすくなるので、どうかなとは思っていますけれども。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

確かにそのとおりでもあるなと思いました。あと、もしやるんだとした場合は、オペレーションをやっぱり、一人一人によってインタビュー項目を変えるのは面倒くさいですね。面倒くさいというか、毎回チェックが必要になって大変になるので、もしやるのであれば、質問項目を決めて、さっき言ったように1面で4人、この人とこの人とこの人とこの人って決めてやっていくというのは、不可能じゃないかなというふうには思いましたが、我々がやる気をもっと出すと。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

確認だけしたいんですけど、今、例えば1年に4人というお話で、話が仮に進んでしまおうとして、それが決まったとするんですけども、平等性という意味で、ちょうど我々の任期が終わった直後ぐらいにまた選挙があるんですけど、選挙の直前にやっている方が、やはり目につきやすくなったりしてしまうと思うんですね。それがやっぱり、以前もちょっとそれは平等に欠けるんじゃないかという話があったんですけど、そこは問題ないのでしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

ピックアップされる人が選挙に出るかもという話ですか。

○（中山尚大君）

そうです。例えば、今から4年後の特集のときに、選挙直前にされた人が有利になってしまうとか、そういう考え方とか、そういうのは全くないということかという確認です。

○（石山和生君）

多分、事前に分かれば、やっぱり外したほうが良いとは思いますが、その人が出るか出ないかは、未来になってみないと分からないので難しいですが、うわさが立っているのに、わざわざその人にしにいくということはしないようにしたほうが良いとは思いますがね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

今、事務局さんのほうからおっしゃっていただいた、アンケートで意見を吸い上げる案と、二つあるじゃないですか、4人決めるというのと。今、それは石山委員、どちらの方向で。

○（石山和生君）

取りあえず、市民のものを一回区切りつきたいですよ。二つとも。アンケート結果を反映させるというのは、運用を、それ用にページを1ページつくるということ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

私のイメージでは、市民の意見を吸い上げるページとして、アンケートに届いた議員さんに聞きたいことに答える号と、インタビューをつくる号のどちらかを必ず載せる。二つの柱を用意しておいて、インタビューができる月はインタビューを、そうでない月、忙しい月は回答コーナー、質問に答えるコーナーにすることで両立ができるんじゃないかという意見でした。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

僕は、アンケートはアンケートのページで、市民のページは別に結構独立したページ

やないですか。同じくくりにしたら。

じゃあ、アンケートの話も、議員への質問、さっきの話とどっちかというと一緒に、議員紹介ページに事務局宛てに連絡が行き過ぎたらさばくのが大変だという話と多分、僕は同じような感じがするので、それは大変じゃない。大変というか、だってそれこそ、篠崎委員に何々やってほしいといって、それを篠崎委員がやったら、篠崎委員がやったことだけまた出てきちゃうみたいな話になるんですよね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

恐らく聞きたいことというのは、例えば、これがこうなんだけどというのに対して、誰がというわけではなく、それに対して議員さんたちがどう考えているかということをお知らせするという解釈でいいですかね。なので、誰がというふうにはならないと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

それはアンケートの聞き方で、行政向けの意見とかも聞くんですか。あくまでも、議会広報紙の評価なり何なりという話ですかね。そこら辺ってどう。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

細かくは考えていないですが、主に議員さんたちに質問してみたいことであったりだとか、例えば原発に対して皆さんがどんな思いを抱えていますかみたいなものを採用してもいいですし、来た意見から採用しやすいものをピックアップして、議員個人ではなく議員全員としての回答で、牧之原市議会として答えられるものを選んで、議員と市民の交流ではないですが、市民の皆さんが議会に特に興味を持ってくださっている方がくれた質問に対して答えるという形式を取れば、市民と双方向性のある記事として成立がするんじゃないかなというのを考えたんですけれども、あくまでも事務局としての意見ですし、私はアンケートをやっているというか、ロゴフォームというのを使うんですけど、使ったことがあるから今やっておりますが、次の担当が同じようにロゴフォームに詳しいかは分からないので、絶対に今後、継続的にやり続けられるかと言われると、検討が必要かなというの思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

僕は、アンケートは政策的な話みたいなのをできるような場所にしてしまうと、これには答えないとか、これには何で答えないんだとか、そういうのも出てくるし、結構難しいと思います。自由に、しかも出しているわけだから回答しろよという、若干、本当に回答、それこそ原発とかは本当に大変ですよ。ここで、しかも議会としてまとまっているかどうかなんて全く分からないし。そういうのが来たときの回答をどうするんだとか、そういうのを考えたりするというのも、この広報委員会の中で、完全に議運に許可を取る必要があ

るとか含めて、ちょっと僕は。

広報紙に対してのアンケートだったらいいと思います。今やっているようなアンケート。広報紙に対してなんだとすると、わざわざ1ページ。たまにやる分にはいいですよ。定期開催というのは、ちょっと合わないんじゃないかなという、個人的には思います。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

自分から。それこそ今、副委員長言われたとおりに、そういう原発、たまたま原発が出たのであれだけ、すごく重たくて、これは本当に議長、副議長、正副も当然、議会運営にもはからないといけない、出してもいいのかと、そこら辺の話になってきてしまうので、やっぱりこちらのアンケートの投げかけ方になってくるのかなと思うので、そこら辺はまた協議しながらやっていけばいいかなと思います。

ただ、やるのか、やらないのかは、取りあえず決めておいたほうがいい。

副委員長。

○（石山和生君）

なので、僕はやってもいいと思います。広報の。なので、完全にこのページと交互交互という話は1回置いておいて、アンケートをやるというときがあっても全然いいと思っています。

インタビューはインタビューで定期開催するのかどうかという議論をしたらどうかなと思っていますが、どうですか。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

個人的に。それこそアンケート、どこまで声を拾えるかというのを、数的、量的なものもあるので、そこら辺はまた、本当に全然来ていないとなると、また今度は出向いてインタビューになるかなというパターンも出てくるかもしれない。

それは一応やるという感じでいいんじゃないかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

こんな話をしているかどうか分からないんですけど、一、二回はさくらを用意して、こういうふうに取り上げてもらえるんだとかというイメージが湧けば、多分みんな来てくれると思うんですけど。

○（石山和生君）

インタビューの話ですか。

○（篠崎朗子君）

インタビュー。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

1回別で考えるということで、インタビューはやるなら質問も固定で、みんなで分担してやれば、できなくもないんですけど、質問の内容はまた後で決めるとして、こういう市民インタビューみたいなページをつくる、ある程度、定期的につくるかどうかというところだけ、今日お話ししておきたいです。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今、篠崎委員が言われたさくらという、これはちょっとまずいと思っている。これもれたときには全部、これってほとんどさくらだろうと思われちゃうので。おたより自体が。なので、さくらはなしでということをお願いします。

副委員長。

○（石山和生君）

さくらというか、単純にお願いして来てもらえばいい。表現があれだけれど、誰々さんお願いしますと別に言えばいいだけのことで、それはそれでいいと思います。

僕はやるなら、冷静に考えると、質問も決まってレイアウトも全て決まっていれば、そんなに大変じゃないんだとしたら、3か月に1回できなくもないかな。だから、やるんだったら定期開催でもいいかなとは個人的には思いますが、皆さんどうですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

これも1年トライしてみて、無理が出てくるのであれば、ほかの仕事に支障が出てしまうとまずいので、そこもやっぱり2回とか3回とかトライして様子を見るというのでいいんじゃないでしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員、いかがですか。

○（菅沼保弘君）

私もほぼ同意見なんですけど、やっぱり不安要素が大きくて、トライできるかなという。インタビューが。どうしても、インタビューしたい人に対して、違うことが返ってくると思うんですよね。項目はこちらで決めておいて、これを聞きますよ。だけど、そのとおりに返ってこなかったら、それにも反応しないといけないし、答えてやらないといけないというところが出てくると思うんですよね。

○（中山尚大君）

それでいいんじゃないですか、駄目ですか。

○（菅沼保弘君）

いいんですけど、政治的な内容が入ってくるので、どうしても。インタビューの中に。

○（中山尚大君）

でも、こっちが返事しなければ。

○（菅沼保弘君）

返事しなければいいんですけど、今度、向こうにわだかまりが残るので、ちょっと悩んでいます。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

なので、中山委員が言っていたのは、そういう政治的な、全く触れないような質問にしたらいんじゃないかというお話が出ていましたが、全く関係ないような話を見たいかというのは、確かに議論としてありますね。

だから、あり得るとしたら、ライオンズのトップをやっている人とか、何かありますよ

ね、そういう地域。

○事務局書記（増田奈菜子君）

地域おこし協力隊だったり。

○（石山和生君）

そんな感じの人たちに順々声かけていって、今まで幼少期どうだったかとか、その人の人生深堀りみたいなのは、できなくはないと思うんですが、これを広報紙でやるというところが、どう思いますというところですね。

○（菅沼保弘君）

聞かれている内容かなという。

○（石山和生君）

そうそう。行政がやっているのは何となく分かるけどという。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

意見がたくさん出ている中で申し訳ないのですが、この後、14時半から学組のほうがありますので、ちょっと時間を見ていただければと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

10分までということで、それではお願いします。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

双方向というのは物すごく私やりたかったですけれども、今のお話を聞いていると、ちょっとそこまでやって議会広報に載せる意味というのが分からなくなってしまったので、もうちょっと内容を精査するかというふうにできたらいいなと思うんですけど。

目的そのものから外れている可能性があるなというのはあるので、というところをもうちょっと深めたいなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

アンケートの結果というのは、いつ頃出るんですか、今度。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

アンケートの結果は、3月15日締切で3月24日に行う予定である議会広報特別委員会にて皆様に共有させていただきます。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

そのアンケートの結果を見ながら、もう一度上げていくとか、ベースはある程度今出ている話で決まると思うんですけど、アンケートにどんなことが書かれているかを見てから、そこからまた方向性を修正してもいいんじゃないですか。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

それはもちろんそのようにしたほうがいいと思います。ただ、スケジュール的にも難しいところがあるので、今のうちに議論を活発化させておこうというぐらいの感じですね。なので、アンケートの結果は必ずちゃんとフィードバックして入れていく必要はあると思います。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

私として、双方性の確保というところで、この記事に対して皆さんがどういう意図を持ってこの記事をつくりたいかというのを共有したほうが、まずいいのかなと思って。議会から何か伝えたいものがあるのか、読んでいる方が議会に興味を持ってもらいたいからこの記事を書いているのかで多分方向性はだいぶ変わってくると思うんですね。

読んでいる人がこっち側に興味を持ってもらいたいという目的でやっているのであれば、かなりそういう柔らかい記事でもいいと思いますし、こちら側から何か伝えたいのであれば、どうしてもやはりある程度議会広報としてふさわしい記事みたいなものを考えなければいけないんじゃないかなというふうには思いますので、そこをどっちにするのかというのを、きちんと共有したほうがいいのかなと私は思いました。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

私が最初に双方向ということで伝えたかったのは、主に市民の声がそのままどういうふうに議会として議論されているかとかということなので、個人別にどうこうということよりも、こういう声がありましたとか、例えば、学校再編とか、火葬場とか、大きい事業、分かりやすい事業とかの中で、こういう意見があったけど、それに対してどうだったみたいなことを、ちょっとすみません、伝えにくいですね。そういうふうに、市民の声に対しての、議案に対してどうだということを伝えられたらいいなと思ったんですけど。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

つまりだから、要はこの場を、市民の声を聞いているよということ表現する場にしたということですね。

でも、市民の声を聞いているよということを我々がアピールする場だとしたら、どうしても政治的な話になってしまうのではないかなと思います。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

でもそれは、それをさっき言った（４）のコンテンツとかも本当はデザインの話になっ

てくるんですけど、それを今までの議案の記事に、例えば市民はこう言っていましたみたいな、すみません、この前送らせていただいたんですけど、おばちゃんが、これはどうなってんねんみたいなことを言っているところに、議案としてどういうふうに討論されたかとかというふうなイメージで書いたんですけど。また、画像で見ただけだと。

○事務局書記（増田奈菜子君）

多分見逃したかもしれないです。

○（篠崎朗子君）

分かりました、メールをお願いします。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それこそいろんな意見が出たんですけど、今度、アンケートもまた集計ができて、そこでまた協議していけばと思います。

次の、この後時間がそろそろあれなので、最後に副委員長。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

5番に関しては、もうちょっと話したほうがいいというところで、一旦まだペンディングでということでもいいと思いますが、皆さんも次回、また話すときに、ここのさっき言っていた、何が目的で、議会広報紙の目的があって、プラスこの企画、市民の声を聞くという企画の目的がどういうものなのかを、ちょっと持ち寄ったほうがいいかなというふうに思いますので、皆さん考えておいてほしいです。

これ以降って、スケジュールってどんな感じなんでしたっけ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

3月の議会の2日目になりますので、次回が3月3日に議会広報特別委員会を行う予定でおります。その次が最終日になってきますので、3月24日の予定です。

またスケジュールをつくって送付させていただきますので、よろしくをお願いします。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長、6番、7番、そのほかになるけど、それはまた次回で、無理なので、一応そういう形で今、副委員長から、広報紙の目的、あと市民とかそういうところの目的を、また次回、ここで発表していただければと思います。

副委員長。

○（石山和生君）

新しいコンテンツをつくる時はやっぱり、あまりうーんと思いつながらやるのはちょっと危険だなと思っていて、みんな、よしいこうとなったら採用で、うーんという状態が結構多いときは見送ったほうがいいかなとは思っていますので、皆さん自分で意見を持ってきてもらいたいなと思います。

○事務局書記（増田奈菜子君）

さっきの島田市だったりとか、ほかの議会さんがやっている町民インタビュー、市民インタビューを見て、実現可能性があるかだったりとか、どんなものかというのを確認して

いただければと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ではいいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今日はここで、時間もちょうど10分になりましたので、終了させていただきます。本日はありがとうございました。

〔午後 2時09分 閉会〕